

# 第1回 革新的な数値天気予報と被害レベル推定に基づく 高度な気象防災 成果発表会 プログラム

プログラム 2月20日(月)

10:00-10:25	挨拶 高橋桂子 (海洋研究開発機構)
	研究説明 瀬古弘 (海洋研究開発機構/気象研究所)
10:25-11:20	先端的データ同化手法の開発と観測ビッグデータの活用 三好建正 (理化学研究所 計算科学研究機構)
座長 三好建正 (理化学研究所 計算科学研究機構)	2015年9月の関東・東北豪雨事例における地上観測データ同化のインパクト 前島康光 (理化学研究所 計算科学研究機構)
	二重偏波レーダーデータを用いた同化実験 川畑拓矢 (気象研究所)
	竜巻の発生条件 —データ同化と超高解像度アンサンブル実験による解析— 横田祥 (気象研究所)
	NICAM-LETKFの開発状況 寺崎康児 (理化学研究所 計算科学研究機構)
11:20-12:05	超高解像度数値予測モデルの開発と顕著現象の機構研究 新野宏 (東京大学)
座長 新野宏 (東京大学)	台風全域LESのロール構造の解析 伊藤純至 (気象研究所)
	2015年9月に対馬の海上で突風を引き起こしたメソ $\beta$ 渦の数値シミュレーション 栃本英伍 (東京大学)
	台風の目の壁雲へのエネルギー輸送過程 宮本佳明 (マイアミ大、理化学研究所 計算科学研究機構)
12:05-13:10	昼食
13:10-14:15 ひまわり8号特集	招待講演 気象衛星ひまわりの観測ビッグデータ 上出一美 (気象庁気象衛星センター)
座長 瀬古弘 (海洋研究開発 機構/気象研究所)	平成27年9月関東・東北豪雨事例におけるひまわり8号輝度温度観測データ同化のインパクト 本田匠 (理化学研究所 計算科学研究機構)
	ひまわり8号で観測した高頻度大気追跡風や海面水温の豪雨や台風へのインパクト実験 國井勝 (気象研究所)
14:15-15:00	高精度領域数値天気予報と気象防災への応用 齊藤和雄 (気象研究所/海洋研究開発機構)
座長 齊藤和雄 (気象研究所/海洋 研究開発機構)	アンサンブル同化における最適摂動手法について 齊藤和雄 (気象研究所/海洋研究開発機構)
	従来型観測のみを用いたNHM-LETKFによる領域再解析システムによる降水量の再現性 福井真 (東北大学)
	An EnVAR system with its own analysis perturbations using the block algorithm Le Duc (海洋研究開発機構)
15:00-15:15	休憩
15:15-16:05	高解像度結合モデルによる北西太平洋全域台風予測 伊藤耕介 (琉球大学)
座長 齊藤和雄 (気象研究所/海洋 研究開発機構)	大規模災害をもたらした豪雨事例の広域・超高解像度実験 大泉伝 (海洋研究開発機構)
	「京」によって洪水氾濫計算はどう変わったか？ 小林健一郎 (神戸大学)
	Hydro-debrisを用いた土石流発生予測と土石流発生地域への応用 山敷庸亮 (京都大学)
16:05-16:35	気象データマイニング局地的突風解析システムによる被害レベル推定 田村哲郎 (東京工業大学)
座長 田村哲郎 (東京工業 大学)	気象モデルWRFを用いた突風のシミュレーション Tao Tao (東京工業大学)
	地表近傍に発生する突風の乱流構造に関するBCM-LES 河合英徳 (東京工業大学)
16:35-16:50	総合討論 瀬古弘 (海洋研究開発機構/気象研究所)